



## その後の「宗像市の植物」

『新修宗像市史』自然部会から

『新修宗像市史 うみ・やま・かわー地理・自然』第4章 宗像の生物 第1節 植物（以下、「新修市史・植物」）の出版（2019年5月）から一年半を過ぎたところです。本稿では、出版後の動向について紹介します。

### 出版後に見出された植物 ・ 消失した植物

「新修市史・植物」の植物目録では、2018年11月の時点で宗像市で見・記録されている植物約1300種を採録し、希少植物種については生育地の地名も掲載しました。その後、市民の方々、とりわけ宗像植物友の会の方々によって目録に含まれていなかった希少種の生育地が発見されました。特に、比較的良好な湿地が新たに見つかり、そこには、うれしいことに、生育環境の消失・悪化によって宗像市から姿を消したとされていた湿生植物数種が報告されています。これらは、更に検討を加えた後、植物目録の補遺として取りまとめ、公表する予定です。

一方、残念ながら、目録に掲載したにもかかわらず、農業用溜池の改修によ

って消失した可能性が高い希少植物種の生育地もあります。豪雨災害や地震による溜池の決壊は地域の大きなリスクとなっているので、防災上必要な改修がされるのは当然です。しかし、生育地を改変しないような工法や、植物を別の場所に避難させる（生育地外保全）等の方法が採れなかったことが悔やまれます。

### 希少植物種の存続を脅かす要因

「新修市史・植物」の本文でも一部言及しましたが、希少植物種の存続を脅かしつつある、あるいは脅かすであろう要因は開発や造成、管理（草刈りや刈り）の放棄、シカやイノシシ、外来種の増加など、非常に多岐にわたります。

シカは、10年程前までは、九州自動車道の北側はごく狭い範囲でしかシカの

活動の痕跡（糞や食痕）が見られない状態でしたが、現在では、九州自動車道から2km以上、宮若市との市境から1km以上北に離れた所でも痕跡をひんぱんに見かけるようになりまし。シカ高密度地域のように林床がスカスカになっているような場所は、宗像市にはまだありませんが、シカは、好みの植物から優先的に採り当てて食べるため、目立たないうちに減少している種もあるかも知れません。

私が勤務する大学の敷地内で、10年ほど前から宿根性外来種のオオバアメリカアサガオ（リュウキュウアサガオ・イリオモテアサガオ・外来ノアサガオ等、いろいろに呼ばれる）が繁茂し、樹木、フェンス、屋外飼育槽から畑まで覆い尽くしている場所がありました。2019年冬から翌春にかけてツルや地下茎を除去すると、ここ数年見られなかった野草が再び見られるようになり、外来種の威力を再認識させられました。

人間の様々な活動は、直接・間接に、生物種を滅ぼすことも、新しい種を持ち込むこともあります。宗像市を舞台とした人の営みが続く限り、植物相はこれからも変化していくはず。そのような変化を記録し続け、保全に活用していくことが求められています。

（自然部会 福原達人）



宿根性外来種オオバアメリカアサガオ

- (右) 長さ2cm 足らずの細い茎からでも芽吹いて繁殖する
- (中) 畑から樹木まで覆い尽くす
- (左) 除去したつるを積み上げると高さ2m 近くになった